



大いちょう

平成28年 6月 1日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 平成28年度 No.3

048 (829) 2737

「高砂の子どもたち」

～ 近二題 ～

校長 石山 大介

一 修学旅行

5月24日、25日は絶好の天候に恵まれました。一生に二度と無い修学旅行の二日間が天候に恵まれたことは、とても有り難いことです。学校行事の成否は天候に因るところ大です。地球から6年生へのプレゼントだったのでしょ。

新緑に映える華巖、戦場ヶ原。群青の中禅寺湖。杉の古木に囲まれた数百年の東照宮の佇まい。自然・神話・歴史の織り成す世界遺産の空間を堪能した6年生は、一回り大きくなって帰ってきました。滞在時間僅か16時間弱でしたが、旅館「花の季」の女将の言葉が6年生の成長ぶりを証明しています。

「校長先生、素晴らしいお子さんたちですね。お越しいただいた時からそう感じていましたが、それがたった一晚過ごす中で、またまた磨きがかかりましたね。おもてなしをした甲斐がありました。どうぞご無事で。ありがとうございます。またご縁がありましたら是非。」と言いながら深々と頭を下げる女将。その言葉は単なる営業目的のお世辞ではありませんでした。

二 教室訪問で

ある学級の廊下に差し掛かると、いつもと違う教室の様子に気付きました。座席が黒板の近くまで寄せられて、さらに中央にかたまっていました。子どもにとっては、座席の前後左右をくっつけて座っているので窮屈な状態です。授業は算数。よく集中しています。ときどき囁くように小声で「静かにッ」と互いに注意し合う子どもたち。先生はいつもよりとても小さな声。授業は淡々と進んでいます。先生はジェスチャーで子どもたちに指示しています。しばらくして私語があると今度は、「先生大きな声が出せないんだから、静かに聴こうよ」という子どもの声。

この日の朝、担任の先生は声帯を痛めて掠れた声しか出せず、私との挨拶も儘ならない様子でした。ですから教室の座席配置やジェスチャーをたくさん取り入れた授業の進行は、先生の工夫だったと分かりました。また、囁くような声で注意し合っ、リラックスムードを少し改めて、より授業に集中しようとする子どもたちの態度は、先生への精いっぱい思いやりでした。授業のすすみ具合を気にすることより、先生を心配する気持ちの方が圧倒的に強かったのは言うに及びません。

囁くような声で注意し合う行為、先生が大きな声を出せないから静かにしようとする思いやりは、また、その態度は、相手が自分よりも年少であろうと年長であろうと、誰に対してでも何に対してでも、当たり前を示してほしいものです。

悲しいかな当たり前のことが当たり前にならない、当たり前でできない今の世の中です。しかし高砂の子どもたちはこの「先生の声」の件で、極々自然に躊躇することなく思いやりを行為に移すことができました。彼らは自覚していたかどうか分かりませんが、人間が「人」として心の中にもっている大切なことが引き出されたのは確かです。とてもよい勉強をしました。素晴らしい子どもたちです。

声がしっかりと出せるようになった時に、思いっきり子どもたちにお礼を言ってあげたら、子どもたちの心の中に、さらにさらに温かさがギュッと凝縮されるでしょう。